

2023

6月

ゆ う ひ ろ ば



国際シンポジウム「先住権としての川でサケを獲る権利」
(2023.05.28 浦幌町コスミックホール／平田剛士撮影)

特集 安保3文書改定を考える

「もはや戦前である」という認識と「新たな大戦」を回避するために 「軍拡NO！女たちの会・北海道」設立集会より	… … 2
ここ10年の日本の軍拡の動き	… … 5
明大・山田朗先生の講演会を企画して	… … 6
開発協力大綱の改定と非ODAの軍事援助	… … 7
住民を軍事監視区域に囲い込む土地規制法	… … 8
G7広島サミットを問う市民の集いに参加して	… … 9
台湾と協調し「有事」回避を	… … 10
	… … 11

寄稿 「思考停止装置」に抗い続けた人、加藤多一さんを悼む	… … 12
寄稿 旭川市議会議員選挙選・体験記	… … 14
リレーエッセイ 私とさっぽろ自由学校「遊」(第6回)	… … 15
連載 タントアナクネピリカ(第6回)	… … 16
連載 フィールドワークな日々(第93回)	… … 17
さっぽろ自由学校「遊」からのお知らせ など	… … 18-20

ります。「専守防衛」を放棄した上でさらに防衛費を2倍にするという戦略はまさに日本が自らを戦争できる国に変貌させることであって、本来明文改憲でなければ許されないほどの戦後安全保障政策の重大な転換です。にもかかわらず岸田政権は国会での議論を飛び越え閣議決定のみでこの大転換を強行しました。この立憲主義をかなぐり捨てた暴挙は、2015年に強行された安全保障関連法と集団的自衛権行使容認の解釈変更の際の手法をまさに悪しき前例としたものです。

閣議決定の乱発、もはや「戦前である」という認識

しかし、この与党勢力の数の暴力によって閣議決定を乱発する国会輕視・議会制民主主義の冒流は、安倍政権以降教育への介入の手法としても度々行われてきたものなのです。その一例としては、日本軍「慰安婦」制度の強制性を否定する閣議決定（2007年）や「従軍慰安婦」を否定し、「単に「慰安婦」という用語を用いることが適切である」「強制連行」又は「連行」ではなく「徴用」を用いることが適切であるなどの閣議決定が存在します（2021年）。そもそも2014年の教科書検定基準の改悪によって、日本近現代史に関しては教科書への「政

府見解」の記載を強制していくことから、「閣議決定」に則った記述をしなければ検定合格せず教科書として採用されないため、教科書会社は叙述の「自主規制」を余儀なくされています。このような教科書統制を始めとする教育への介入も、「戦争できる国」の前提として不可欠な國民づくりのために行われているのです。

満州事変からアジア太平洋戦争にいたる一連の戦争の過程を改めて見直すとき、侵略戦争は常に「自衛」の掛け声から始まるところ事実や、「戦争前夜」には内心の自由や学問の自由の侵害の風が吹き荒れていたことを踏まえるならば、この間世論の批判をよそに立て続けに成立した特定秘密保護法（2013年）やテロ等準備罪（共謀罪）の新設を含む改正組織犯罪処罰法（2017年）、重要土地利用規制法（2021年）などは、戦前の治安維持法や軍機保護法を彷彿とさせるものですし、また、今般の日本学術会議への介入を象徴的事例とする学問の自由への侵害も、学術機関での軍事研究を否定する

特集

安保3文書改定を考える

日本の防衛政策がまた大きく転換しようとしている。安保3文書の改定だ。敵国への攻撃、NATO並みの防衛費増、米軍との一体化、中国をにらんだ琉球弧での部隊増強など、その変容ぶりは2014年の集団的自衛権行使容認、翌年の安保法制を超えるとさえ指摘される。防衛財源確保法など3文書具体化の法整備も矢継ぎ早に進む。

3文書改定による軍拡の意味を読み解き、市民としての対抗策を探る。

改定安保3文書の閣議決定と「戦争できる国」づくり

ウクライナ侵略戦争を契機に、日本でも防衛力（＝軍事力）の増強やロシアと中国を同一視するかのような「台湾有事」論が当然のごとく議論されています。そうしたなか岸田政権は2022年12月16日、「国家安全保障戦略」など安全保障関連3文書（以下、安保3文書）の改定案を閣議決定しました。そもそも安保3文書とは、2013年に時の安倍政権が掲げた積極的平和主義に基づき策定された外交・防衛政策の基本方針である「国家安全保障戦略」と、「防衛計画の大綱」（防衛大綱）から名称を変更した「国家防衛戦略」「中期防衛力整備計画」（中期防）を改称した「防衛力整備計画」のことです。それぞれ5～10年の中長期を想定して安全保障上、必要な政策などが盛り込まれているものであります。

「防衛計画の大綱」は1976年に初めて作られ、これまでに6回策定されてきました。2013年の改定では、陸・海・空3自衛隊を連携して運用する「統合機動防衛力」の構築が、それがこれまでの2倍となる国内総生産（GDP）比2%である9兆円を総額として提示したわけですが、そうなれば日本は世界第3位の軍事大国（現在でも世界第8位）に躍り出ることになりました。また、この度の改定では「敵基地攻撃能力」の明記に加え、23年度から今後5年間で防衛費（という名の軍事費）は43兆円、最終年の27年度には現在の2倍となる国内総生産（GDP）比2%である9兆円を総額として提示したわけですが、そうなれば日本は世界第3位の軍事大国（現在でも世界第8位）に躍り出ることになりました。

「もはや戦前である」という認識と「新たな大戦」を回避するために

本庄十喜

18年では、宇宙、サイバー空間、電磁波を含む全領域の自衛隊の能力を融合させる「多次元統合防衛力」の構築がそれぞれ明記されました。

今回の改定では、米国と同じ名称となる「國家防衛戦略」に改め、戦略的な側面が重視されています。さらに、防衛装備品の5年間の調達計画を定めた「中期防衛力整備計画」は対象期間を10年間とし、名称が「防衛力整備計画」に変更されました。そうして今回の改定で戦後日

本の国是であるはずの「専守防衛」原則を根本から覆すと議論の対象になつて、「敵基地攻撃能力」に関しては、「国家安全保障戦略」で保有を打ち出し、「国家防衛戦略」で使用する際の要件、「防衛力整備計画」で関連する装備

を明らかにすることとなりました。

また、この度の改定では「敵基地攻撃能力」の明記に加え、23年度から今後5年間で防衛費（という名の軍事費）は43兆円、最終年の27年度には現在の2倍となる国内総生産（GDP）比2%である9兆円を総額として提示したわけですが、そうなれば日本は世界第3位の軍事大国（現在でも世界第8位）に躍り出ることになりました。

学術会議への「テロ入れ」と見る他なく、これらは総じて「戦争できる国」作りのための足掛かりといえるものでしよう。こうした事象を歴史から照射するのであれば、日本は既に「戦前」の段階に入っていると言わざるを得ません。

軍拡、「新たな大戦」の潮流を押し戻すために――私たち市民に求められているもの――

以上述べたように安倍政権以降から改定安保3文書の閣議決定に至るまでの度重なる国家戦略によって、日本が「戦争できる国」に変貌を遂げていることは紛れもない事実です。そつした危機に直面する最中、私たち「戦争をさせない」市民に求められているものは一体何でしょうか。それは、「もはや戦前である」という危機意識を常に持ちつつ、日本がかつて犯した侵略戦争の被害と加害の歴史と記憶を紐解きながら、現在行われている戦争の実態や日本の軍拡の実態をしっかりと認識した上で、軍拡に突き進む国家を監視していかなければならないということです。さらに今一度、改定安保3文書の問題点を確認するのであれば、そこでの仮想敵国は中国（今回「防衛力整備計画」に明記されたミサイル「島嶼（とうしょ）」防衛用高速滑空弾）は射程距離2千～3千キロであり、北京が実態として攻撃射程に含まれている）であることか

特集

戦争準備より生活支援を「軍拡NO！女たちの会・北海道」設立集会より

文責 飯島秀明

軍拡に危機感を募らせた有志によつて発足した「軍拡NO！女たちの会・北海道」の設立記念シンポジウム「新しい戦前にさせない」が5月11日、札幌エルプラザで開かれ、1月に東京で発足した「平和を求める軍拡を許さない女たちの会」の共同代表で法政大学名誉教授の田中優子さんと、北海道の会の呼びかけ人で作家の雨宮処凜さんが講演した。2人の発言を紹介する。

『田中優子さん』「女たちの会」は1月、ほんの数人で始まつたが、オンライン署名では、1ヶ月足らずで7万5千人分が集まつた。なぜ「女たち」か。女性は、戦争の可能性が迫ることの態勢を、初めて参政権を持つて迎える。前の戦時には女性も戦争体制に絡め取られてしまつた。今度こそ「反戦」や「戦争回避」を訴え続けなければならない。

自民党は軍事費の財源確保のため増税しようと/or>しているが、軍拡は、この国を衰退させ、周囲に敵を作るばかり。今こそ生活と平和を守る「女性」目線の政治が必要だ。女性が安心して働けない環境では男性や子供も貧困化

する。私たちは国会審議や総選挙などもないまま戦後の安全保障原則を大転換させることを認めない。軍事費「5年間で43兆円」GNP比2%」の撤回を求める。

中国は一つだといふ原則を、日米も認めている。中台問題は国内問題であり、米国や日本が軍事的に関わるべきことではない。なのに有事に關し何の説明もない。

『雨宮処凜さん』この3年ほどのコロナ禍での貧困、軍拡どころじゃない現実がある。貧困対策を訴えるたびに「少子高齢化で財源がない」とさんざん言われて来た。なのになぜ軍事費に関しては財源論より前に大幅増額が決まるのか。

「コロナ禍で、生活困窮者の若年化とともに、女性の割合が増えている。炊き出しなど現場に集まる人の中に、家で夫と子どもが待つていてるという母親など女性の姿も目立つていて。2008年から09年にかけての年越し派遣村に来た約500人のうち女性はわずか1%。それが、コロナ禍後のメール相談や、年末年始のコロナ被害相談村では20~30%前

飯島秀明（いいじまひであき）
元新聞記者。帝国日本の加害の歴史に向き合うことをライブワークに「遊」や平取「アイヌ遺骨」を考える会、沖縄の基地を考える会・札幌などで活動。

らも、中国から見て明確な軍事力増強であり脅威であること、こうした軍拡は連鎖し、ともすれば日本の予想をはるかに超えた歎止めのかからない世界的軍拡競争を招いてしまうということが危惧されます。中国を仮想敵国に設定する第一義的な要因である中国とロシアの同一視と「台湾有事論」は、外交的要素を捨象した米政府系機関やシンクタンクの主張を鵜呑みにした議論であること、中国は現在日本の貿易額の四分の一（中国への進出企業は12000超）を占めるという現実があること、そうした主要貿易相手国を敵とみなす無謀かつ非現実的な戦略は、本来経済界も含めて現実主義的な側面から批判しなければならないもののはずです。さらに付言すべきは、「侵略」を「自衛」に、「軍事」を「防衛」に、「敵基地攻撃能力」を「反撃能力」にというよくな言葉のすり替えは、問題の本質を見失わせるための常套手段であり、そうした自論見に私たちは決して騙されてはなりません。アメリカの質、先鋒として中国を仮想敵国と位置づけるのではなく、建設的な関係を構築してきた悠久の日中関係史を顧みながら、米中の仲介役として外交に積極的役割を見出す世論を形成するべきではないでしょうか。

今こそ、安倍政権の打ち出した「積極的平和主義」などではなく、紛争や戦争の要因となる

本庄十喜（ほんじょうとき）
「遊」理事。北海道教育大学札幌校准教授。



その過程を検証しないまま、現在、防衛費はGDP比2%に向けて次年度以降の防衛予算まで前倒しで組まれ、2023年の新規後年度負担は7兆6千億円、前年比1.26・1%と驚異的な増額。使えるお金が増えれば、買える軍備の質も変わり、それが「戦略の変化」をもたらすそうです。例え

弱かつた特殊な時代です。そういう中国を普遍だ
と思って、じるところに実態とのズレがあります。イメ
ージではなくて、人的交流を通して現実の中国
を知ること。そして逆に、日本の軍事強化が中国
やアジア諸国からどうみえるかを考えなければ。
(余談ですが、私が数年前、戦争が兵隊「だけ」で

先生のお話は、日本の軍事的な歩みを由田清田露戦争の時代から俯瞰してみていくことから始まりました。軍事同盟とは仲良しクラブではもちろんなく、両国の思惑で戦略的に結ばれ、不要になれば簡単に破棄されること。数百年にわたり植民地を支配してきたイギリスなどの老齢な国々の思惑と重なったために日本がたまたま得た勝利を「実力」と勘違いし、さらに戦争に突き進んだこと。

民自身が、戦争に至る歴史と実態、日本の軍拡について実情を知り、監視し、「コントロールする力を強めていくことが重要」とおっしゃいます。これを実行するには、まずはここ数十年防衛費が10位を下ることのない「軍事大国・日本」の、平和国家とは名ばかりの実態を見つめる必要があります。

最後に、質疑応答で最も多かった「中国の脅威」について、記憶をもとに先生の回答をまとめます。「この150年は、長い歴史の中で中国が例外的に



5月21日に開催された講演会

水上さえ（みずかみせん）
イベントグループ what's 千宰。2020年以降は主にコロナ騒動について、対策の危険性も含め学習会を企画。学び調べる中で、戦争と感染症の類似性に気づく。

日本の中止を止めるのは、普通の市民感覚

特集

日本の軍拡を止めるのは「普通の市民感覚」 明大・山田朗先生の講演会を企画して 水上さえ

「防衛省は『言葉を巧みに言い換て 実態を見な
くさせて います』」「台湾有事を言つて いるのはアメ
リカだけです」「皆さん 軍事に関しては素人だと

は太平洋戦争時、艦載距離の長い新型戦闘機F17C「戦II」の完成が真珠湾攻撃を可能にしたようだ。

が館長をされている平和教育登戸研究所資料館でした。旧陸軍が風船爆弾や偽札等、秘密戦の研究をしていました跡地にあります。あまり知られていませんが、実は札幌にも、北海道朝鮮初中高級学校内に同胞歴史資料館があり、講演日の午前中に山田先生をご案内しました。いつか、「歴史資料館シンポジウム」ができたらいいなあ)

ゆうひろば 第187号

ここ10年の日本の軍拡の動き

2013年 国民の知る権利やプライバシーを侵害する懸念の中、特定秘密保護法が成立（12月）

2014年 兵器の輸出などを原則禁止する「武器輸出3原則」を撤廃し、輸出を基本的に解禁し、禁止する場合を規定した防衛装備移転3原則を閣議決定（4月） 集団的自衛権の行使容認を閣議決定（7月）

2015年 集団的自衛権行使容認を踏まえた安保関連法が成立（9月）

2016年 陸上自衛隊が与那国島に駐屯地を開設（3月）。これ以降、宮古島、奄美大島（19年）、石垣島（23年）でも

2017年 一般市民への監視に道を開く「共謀罪」の新設を含む改正組織的犯罪処罰法が成立（6月）

2021年 自衛隊基地、原発などの周辺の土地利用を規制する重要土地利用規制法成立（6月）

2022年 ウクライナ戦争開戦（2月） 企業活動に対する国の関与を強め、世界経済のブロック化につながる懸念が指摘される経済安保推進法が成立（5月） 安保関連3文書改定を閣議決定（12月）

2023年 日英、日豪の部隊間協力円滑化協定を国会が承認、関連法も成立（4月） NATOが、東京での連絡事務所開設を日本と協議中だと公表（5月）。国内の防衛産業を維持するための防衛産業強化法案、軍拡の裏付けとなる防衛財源確保法が成立（6月）



軍拡NO!女たちの会・北海道の設立記念シンポジウム（5月11日）

開発協力大綱の改定と非ODAの軍事援助

今井 高樹



2023年6月

強弁を繰り返した。

昨年9月、ODAなど日本の開発協力の基準方針を定めた政府文書「開発協力大綱」の改定が発表された。私たちNGOは「改定によって非軍事原則がさらに緩和されるのではないか」と大きな懸念を抱いた。なぜなら、前回2015年の改定では相手国の軍・軍関係者への支援が防災や領海警備などの目的に限つて解禁されたからである。

結果的に、今年6月に閣議決定された新開発協力大綱」では非軍事原則はほぼそのまま維持された。しかし、実質的に国際協力のあり方は大きく変わってしまった。安保3文書の「国家安全保障戦略」の中で、ODAとは別に軍事的な援助の枠組みを設けることが明記されたからである。そして今年4月、他国軍に武器・軍事インフラを無償で供与する「政府安全保障能力強化支援（OSA）」が正式に決定された。管轄は外務省である。

市民と外務省との意見交換の場では、「OSA導入は非軍事原則の破棄ではないか」との指摘が相次いだ。外務省は、OSAはODAとは全く別のものであり、開発協力の非軍事原則が損なわれることにはならない、との

選定になつてゐるのは明白だ。しかし、この地域の国々の多くは中国とも米国とも良好な関係を維持したいと考えており、日本が武器の支援によつて「同志国」を押しつけるのだとしたら、かえつて相手国国内の分断や国際的緊張を高めることにならう。

現時点でOSAの供与内容はレーダー設備などだが、「防衛装備移転3原則」が改定されれば（殺傷性のある武器を解禁すべきとの与党議員の声は強い）、OSAでも銃、弾薬、ミサイルや戦車を供与することも制度上は可能になる。

武器供与先は相手国の国軍だが、今年度対象国のフィリピン、あるいはミャンマーをはじめ、国軍が住民を弾圧している国は少なくない。4月に紛争が勃発したスチーランのように行軍が内戦の当事者となり住民への攻撃を行うケースもある。日本が支援した武器によつて人々の命が奪われる可能性は、私たちの想像よりもずっと高いのである。

OSAに反対の声を挙げていきたいと思う。国際協力に携わるNGOとして、これからもOSAに反対の声を挙げていきたいと思う。

谷山博史（いまいたかき）
日本国際ボランティアセンター（JVC）代表
理事

住民を軍事監視区域に囲い込む土地規制法

谷山 博史

6月13日、沖縄県の若手市町村議員の有志

12名が土地規制法の沖縄県への適用に備えて緊急対策会議を開いた。私が所属する2団体、土地規制法対策沖縄弁護団と土地規制法の廃止を求める沖縄県民有志の会も参加した。ここで住民のプライバシー権をはじめとした人権を守るために市町村当局への働きかけの方法が話し合われるとともに、地方議員、弁護団、県民有志の会の新たなネットワークが作られ情報交換と連携を進めていくことになった。

この緊急会議は5月12日に政府が土地規制法を適用する新たな区域候補に沖縄県を選定したことを受けたものであった。候補となつたのは沖縄県の3市3町5村を含む合計1都9県161カ所である。当該自治体への約1か月の「意見聴取」期間を経て8月には区域指定が確定することになる。これに先立つて今年2月には、2021年に法律が成立して初めての区域指定が施行された。北海道の根室市、松前町、枝幸町、厚岸町を含む10道府県58カ所である。今後2024年までに全国で合わせて600カ所が指定されるこ

となる。

土地規制法とは、安全保障上重要な施設周辺や国境離島を「注視区域」や「特別注視区域」に指定し、区域内の住民を調査・監視するものである。自衛隊や米軍の基地、海上保安庁の施設、原発などの周辺と国境を画する離島の一定区域が対象となる。これらの区域の住民の行動が指定された重要施設や国境離島の安全保障上の機能を「阻害」していく、あるいは「その恐れ」があると認められた場合には処罰することができる。「特別注視区域」では不動産の売買の事前届け出が義務づけられる。

この法律は政府が進める「戦争政策」の住民統制という軍事化のもう一つの側面を

なしている。戦前の要塞地帯法や軍機保護法の現代版である。私は2021年に法案段階にあつた時点から全国的な反対運動に参加してきた。全国的な運動は土地規制法廃止アクション、土地規制法を廃止にする全国自治体議員団、沖縄一坪反戦地主会関東ブロックを中心となって行つてゐる。そして今法は私の足元、沖縄を「軍事監視区域」に囲い込むとしている。住民の人権と市民活動の自由を守る戦いは地域に戦いの場を移したのである。

谷山博史（たにやまひろし）
土地規制法対策沖縄弁護団、土地規制法廃止アクション事務局、沖縄対話プロジェクト呼びかけ人兼実行委員。JVC前代表／現顧問、沖縄名護市在住。法政大学人間環境学部と東洋大学国際学部で非常勤講師も務める。

オーガニック・自然食品専門店
らるべ
おべんとうとおそうざい
らるごはん
札幌市中央区大通西23丁目
Tel 614-2406 Fax 614-3836
http://rarubatake.com
10時～19時(日～17時・祝～18時)

憲法を私たちの生活に！
厚別9条の会
会員は厚別を中心に、沖縄のアメリカ兵まで約100名
共同代表 渡辺 信一
TEL.090-6218-8284 FAX.011-897-8390
E-mail : mbwatanabe@yahoo.co.jp

いつだって No Nuke !
北海道のエネルギーの未来を考える
10,000人の会

2023年6月

ゆうひろば 第187号

2023年6月

台湾がかつて日本の植民地たつたらしいことだ。

明治維新後、近代国家の形成の中で日本は、北のヤウンモシリを領土に組み入れ、アイヌ民族の生活基盤を奪いながら開拓、南は琉球王国を武力による威嚇で併合した。その後、朝鮮をめぐる対立を背景に初めて国家として戦つたのが日清戦争。日本は勝利し、台湾を奪い取った。清が「化外の地」として統治に消極的だった台湾で、日本の支配の下、急速な産業近代化が始まられた。抗日運動弾圧のための「匪徒刑罰令」では官吏に抵抗しただけで死刑とされ、数千人が命を奪われたと言われる。

なぜ100年以上も前の歴史を振り返るのか、それは、戦後日本が、過去の植民地支配

「台湾有事は日本有事」と故安倍晋三首相らが発言したが、二つは別ものであり、日本は台湾有事の当事者ではない。しかし、かつて日本が植民地支配で抑圧・収奪し、戦後は長く戒厳体制下に置かれ、ようやく民主化を勝ち取った台湾の民衆に寄り添う歴史的責任が、日本にはあるのではないだろうか。

共産党の統治下での一国一制度が欺瞞であることは香港が証明しており、共産党主導の統一を急ぐべきではない。台湾でも、今すぐの独立や統一を望む人は1割に満たないとされる。実は中国もまた、台湾の独立は武力でも阻止するが、統一は平和的に行う考えを示している。ならば私たちの行うべきは、米国に追随して台湾有事を喧伝し軍拡を急ぐことではない。

特集

まとめに代えて
**台湾と協調し「有事」回避を
アジアの一員として植民地責任に向き合うべきだ**

飯島秀明

「台湾有事は日本有事」と故安倍晋三首相らが発言したが、二つは別ものであり、日本は台湾有事の当事者ではない。しかし、かつて日本が植民地支配で抑圧・収奪し、戦後は長く戒厳体制下に置かれ、ようやく民主化を勝ち取った台湾の民衆に寄り添う歴史的責任が、日本にはあるのではないだろうか。

安保3文書に現れた日本の軍拡は、琉球弧を再び戦場にすることせざる辞さずに地域の緊張を高めるだけではなく、台湾を置き去りにして米国の対中強硬策の一翼を担うという点で、アジアの一員として決して取るべき道ではない。

明確なロシアの侵略であるウクライナ戦争が、世界の願いにもかかわらず今も続いている通り、戦争を終わらせるのは容易なことはない。台湾有事回避の道を、台湾と共に考えていくべきだ。いくら近隣と対立してもごと引っ越しすわけにはいかない。私たちはこの地で国を越えて手を携え、平和を構築していくしかないのだ。

5月19～21日のG7広島サミットの期間中の厳戒態勢はひどかった。企業は休業、学校は休校。野球も中止で空港バスも運休。平和記念公園や宮島が封鎖され、市民生活は麻痺状態。2万4千人の最大級の警備体制が敷かれ、「市民のつどい」も13・14日しかできなかつた。

土地には、歴史が刻まれている。為政者は、その歴史を都合よく利用して上書きしようとする、とつくづく思つた。

2000年G8沖縄での開催は、1995年の少女暴行事件で米軍基地反対の声が噴出した沖縄の怒りを抑える意図があつた。ロシアを抜かしG7となつた広島サミットは、被爆都市の平和を謳つたが、発表された「広島ビジュン」は、核廃絶とは直逆の「核の抑止」の正当化を宣言し、被爆地広島の怒りと失望は大きかつた。

13日の集会は、8時間にわたつた。「市民のつどい」を準備してきたメンバーはずつと、かつての軍都廣島と現在の軍事基地化に向き合ってきた人たちで会はそのレクチャーから

始まつた。
被爆者の豊永恵三郎さんは特別報告で在外被爆者支援に関わってのお話をされた。続いて8の方から多彩なテーマで中身の濃い発言を受けた。元広島平和研究所の田中利幸さんは、原爆と天皇について言及し、日米両政府とも原爆を戦争終了の理由としているが、それぞれの疑惑による「招爆責任」を隠蔽、とりわけ日本は侵略戦争の責任を無視し続けていると指摘した。札幌でも講演した小倉利丸さんはサミットは「偽旗作戦」だが悔つてはいけないとG7のプロパガンダを暴いた。

白川真澄さんはG7対中国包囲網の要として経済安保戦略について話された。安保3文書の改定で、実は経済安保は大きな柱だ。(以上は、「G7広島サミットを問う市民のつどい」) ウェブサイトで視聴できる)

14日前は、軍都廣島が実感されるフードワーク。スタートは比治山。戦後設立された旧ABC（原爆障害調査委員会）は被爆者の治療ではなく調査のみを目的として設置されたことで有名。ここにあつた陸軍墓地

午後は、晴天の下、原爆ドーム前での集会とテモ。テモは、アーケードの商店街で注目を浴びて、市民のつどいは終わった。サミット本番には、ウクライナのゼレンスキーワーク大統領が登場した。ウクライナ戦争は、ロシアの「違法な侵略戦争」とそれに抗するウクライナの「自衛戦争」であるだけなく、「ウクライナを矢面に立てた米NATOの対口弱体化戦争」という性格を有する。岸田政権は、この「対口弱体化戦争」に、経済制裁という形で「参戦」し「殺傷能力のない装備」から「武器」供与へと舵を切って行こうとしている。

岸田首相は軍拡のために被爆地ヒロシマを政治利用するな！

私たちは、戦争も核兵器も原発も気候危機も性差別も解決できないG7を、広島で終わらせることを訴える。

G7広島サミットを問う市民の集いに 参加して

は近くに移転。旧日本軍の施設である巨大な被爆建物の被服廠は昨年ようやく保存が決まつた。旧宇品港の陸軍桟橋跡からは対岸のサミット会場がよく見えた。



家目的と合致した慰靈（碑）は、（中略）戦争をむりやりに正当化し美化し、若者がまた命令で喜んでも死ぬための『仕掛け』になりやすい。30年以上も民間と遺族に任せ放しにしておいた後、一等地に広大な国立墓苑を作った真意は見え見えではないか」



「『天皇制』の時代を語る」集会で聴衆90人を前に語りかける
加藤多一さん=2018年12月23日、札幌エルプラザ

児童文学作家・加藤多一（かとう・たいち）さんは3月18日、小樽で死去。享年88歳。代表作「馬を洗つて…」は「戦争児童文学傑作選」に収録されている。

長谷川綾（はせがわあや）

ゆうひろば 第187号

あれから10年あまり。「多一語」の解説が聞きたくて、私はことあるごとに問い合わせた。チエルノブイリ並みの原発事故が起きて、大勢の人の住まい、暮らし、命が奪われても、「安倍一強」といわれる政治が続く。この日本が変わらないのはなぜ? じつくり私の問い合わせに耳を傾け、ゆっくりと言葉を選び出す。そして最後に必ずと言つていいほど口にするのが、「日本には、天皇がいるからね」だった。

18年12月23日の「天皇誕生日」、札幌で開かれた集会「天皇制の時代を語る」（主催・日本の戦後責任を清算するため行動する北海道の会）で、哲学者・花崎皋平さんと対談。孫世代の北大生が追加取材、再構成した「週刊金曜日」19年4月26日号などで、多一さんはこう述べている。

け。『馬の種付けでも犬の種付けでもヤギの種付けでも、みんな見てるだろ。天皇陛下さまも同じで、やることやってあそこから生まれるしかない』って。僕はこれを『農民リナリズム』って呼んでいる。すべての学校に奉安殿があつて、天皇の写真と教育勅語が置いてある時代に、天皇の神秘さとかいう

「思考停止装置」に抗い続けた人、
加藤多一さんを悼む

長谷川 紗

多大な迷惑をかけた。戦争中は、沖縄の人を集団自決に追い込み、食べ物、住まい、生活、家族を奪つた。戦後は、たくさんの慰靈碑をたてて、米軍基地で狭くされている沖縄の土地をさらに狭くしている、と。

では学んだが、「アイヌ処分」については学んでいたかった、と自身の「無知」を恥じ入った。70歳を過ぎてから、辞書を片手にアイヌ語とアイヌ文化を学び始めた。

「すべてに対しても、とことん追及しない思考停止の根本に、天皇制があるのではないかと疑っている。町内会の不正、校長先生のセクハラ、子どもが命懸けで訴えた学校でいじめ、そういう問題をとことん追及する人は、はじかれる。『まあまあ』で終わらせちゃう」

「権力は政府にあり、権威は天皇にある。政府が謝罪すると、天皇が謝罪したことになる。ところが、日本人には天皇制が骨の髓まで染みついているから、天皇は絶対謝っちゃいかんわけ。天皇は間違わないという信仰があるもんですからね。日本政府は謝罪できないわけさ。戦争であれだけ悪いことをやったのにね。同時に、日本人は権力を追いつめることがない。権威に傷がつくから」

原体験は、生まれ故郷・滝上にある。「僕は、鉄道の終点から12キロも山に入った紋別郡滝上村（現・滝上町）の農家の田舎の子どもだった。水道も電気もなく、敷地に泉が湧いている桃源郷のように

発想^{こうそう}がそもそもない。農民リアリズムは、天皇制^{てんのうち}までも跳ね返すものなんだね」と、多一さんが小学1年、7歳の時、21歳の次兄輝一さんが徴兵された。1945年6月、輝一さんは沖縄で死んだ。24歳。多一さんは小学5年、11歳だった。2カ月後に敗戦。「朝から墨塗りなんですよ。日の丸の旗が描かれた『神聖』な国定教科書を墨で塗つっていく。GHQの指示もあつたが、文部省がそう決めた。一番塗つたのは修身、今でいう道徳の教科書と、歴史の教科書。ところが何ページの何行目を消しなさいと言われても、間違うわけよ。すると先生が『構わん構わん』って言うんですね。教師^{こうじ}というのはこの程度かと」

旭川市議会議員選挙選・体験記

寄稿

小林ゆうき

年齢は54・2歳となつた。

2023年6月

ゆうひろば 第187号

私は元々、今の政治には女性・若者・様々なか当事者の声が届いていないと感じていた。2021年9月末の旭川市議会の女性比率は17・6%、平均年齢は59・6歳、20代の議員は一人もいなかつた。また、一期目の女性議員たちからは、選挙で数百万円の借金をしたとも聞いていた。市民の半数以上は女性なのに、政治の場合は生活に余裕のある高齢者や男性にほぼ独占されている。

この状態に一石を投じたいという気持ちがあつた。また、選挙は民主主義を考える機会であると思っている。市民が政治から排除され、低投票率や無投票当選が問題となり、人権を守らない国の中で自己責任論が蔓延している。20代女性でも、お金をかけなくても、従来のやり方でなくとも、立候補して社会を変えていける。それを示すことで、次の世代につなげたいと思った。

選挙戦は、結果ではなく過程や市民目線を重視した。いわゆる「選挙戦」らしい、①特定地域を地盤としない、②顔入りのポスター！のぼり・看板を出さない、③街宣車や拡声器

を使わないことにした。代わりに会いに来てくれた方との対話をメインにおいた。コミュニケーションが取れるSNSを活用し、利用者層を考えて伝えるための工夫に力を入れた。

周囲はこの選挙活動に懐疑的で、多くの人が「それじゃ受からない」と言われたが、「SNSを見て会いに来た」人たちはだんだんと増えて行った。出会った人たちとSNSを交換して気軽に関係を継続できることも大きかった。

利点だった。そして、票してもらいたい当選することができた。旭川市議会の女性比率は29・4%、平均



小林ゆうき（こばやしゆうき）
1993年生まれ。虐待サバイバー。北海道大学在学中に「遊」でインターンを経験。
2020年に卒業後、女性サポート団体NOLO
IMIT旭川を立ち上げる。2023年4月の
旭川市議選挙にて初当選。

リレーエッセイ 私と、さっぽろ自由学校「遊」 第6回

能登 瞳美

かつてきました。私は小説の映画化や映画の小説化に興味があるのでだと気づきました。

自由学校と聞いて、「学校に行かない人の学ぶフリースクール？」と思う人もいて、「さっぽろ・自由学校『遊』の自由はフリーじゃなくて、フリーダムなのだ」と言つたりしました。

権利、自主、独立などの自由であって、解き放たれることではないと難しく考えていましたが、最近は、押さえつけられない「フリー」も大事だなと思つようになつてきました。

「遊」のスローガンに「私が変わる、世界が変わる」があり、なんだか謎のフレーズですが、自分の理解では、「学びの主体者として、どのように変容するかがとても大事で、そのことが、やがて社会の変革につながる」ということかなと思っています。

私が今まで企画したり参加したりした講座で楽しかったと思うのは、主に「もの作り」関係の講座です。ハーブ料理、羊毛のフェルト作品製作、自然物を材料としたマリオネット作り、キャンドル作りなどです。もの作り講座では、講師の皆さんのが親切で、受講する

皆さんとの共同作業はとても心地よいものでした。

他に「写真講座」や「映像作家になろう」という講座で自分なりの作品を作れるようになつて、自信もついてきて、さらに仕事にも役に立ち、とてもありがたかったです。

今現在は、「読書室よりみちまわりみち」への参加をとても楽しみにしています。参加者が自分が読んだ本を紹介し合うのですが、本の分野も感想もみんながつてよいと気づかされました。そして、自分の読書傾向が分かれてきました。

今年は共同で講座を企画することに挑戦しています。「女性の貧困を考える」という人権に関わるテーマの講座ですが、コーディネーターの3人でよく打ち合わせをして共通理解を進め、講座を進めるにあたつての変更や調整も粘り強くやつていると思います。講座を作るのも「遊」の会員としての面白さかなと思います。

自分はがんばりすぎることが多かつたので、ここ数年は「何事も、できるだけがんばらない」ということを目指しています。がんばらなくては、それなりに分かち合えて、冬眠（休憩）してもいい、そんな感じの講座があつたらいいなあと思つています。

たとえば「がんばらないお裁縫講座」とかです。秘けつは、教え合い助け合うことかな…写真で着ているブラウスは「遊」の講座で作ったものです。

ゆうひろば 第187号

2023年6月

「遊」のみなさま、はじめまして。この6月より2年間の予定で東京の開発教育協会（DEAR）より在籍出向してきました、八木と申します。

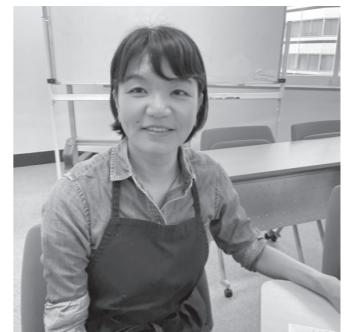
「遊」と「市民外交センター」が事務局を務める「森川海のアイヌ先住権研究プロジェクト」と「遊」の業務を担いつつ、週1日程度はDEARの仕事も継続する予定です。これから講座などでお会いする機会があるかと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

大学時代に国際ワークキャンプに参加したことをきっかけに、ずっとボランティアや市民活動の世界で働いてきました。特に、フィリピンの先住民族・アエタ族との関わりの中で、故・越田清和さんにも大変お世話になりました。国際協力に携わりながら、日本も含むグローバル・サウスの政治や市民が変化することがより公正で持続可能な社会をつくることにつながると考えるように、開発教育に取り組んできました。2017年度からは、アジア太平洋資料センター（PARC）の役員も務めています。

大学を卒業するまで温暖な静岡県で育ち、その後は長く東京に暮らしていましたので、北海道は憧れの地でもありました。札幌に暮らしてまだ1か月ですが、食べ物がおいしいこと、自然が身近にあること、湿度がなく過ごしやすいことに感激しています。冬の暮らし不安なので、いろいろ教えてください。

新任のご挨拶

八木 亜紀子（やぎあきこ）



6月13日（火）に事務所の大掃除をしました。大嶋さん、黒田さん、七尾さん、細谷さん、ありがとうございました。

さっぽろ自由学校「遊」からのお知らせ

オンライン開催講座（2023年7～8月開講分）



講座のお申込は、
<https://ssl.form-mailer.jp/fms/829a2f3f778535>
より申込フォームにご記入のうえ、送信ください。



Let's Talk! 世界と出会う英語 ★アンドレス・パトリシアン

毎月第二・第四月曜 19:00～

タシハンポン / もういちど ハングル ★コ・ソンギョン

毎月第二・第四木曜 19:00～

SDGs「私たちの声を、地域に」part2—当事者からみた地域の課題と政策

- ③ 7/25（火）19:00～ 研究者の役割=知った者の責務 ★山中康裕
- ④ 8/29（火）19:00～ 市民の自発的活動が社会を変える ★中西希恵、佐藤雅一

なぜ公害はつづくのか

- ③ 7/11（火）19:00～ 水俣病患者たちの今－胎児性患者の「65歳問題」から考える ★野澤淳史
- ④ 8/8（火）19:00～ 足尾銅山鉱煙毒事件は何を今に語るのか ★友澤悠季



さっぽろ自由学校「遊」からのお知らせ

会場&オンライン併用講座（2023年7～8月開講分）

（会場記載のないものは愛生館ビル5F 501会議室にて）



先住民族の森川海に関する権利 —ヤウンモシリ（北海道）の森林とアイヌ民族

- ③ 7/3（月）19:00～ 対談ライブ・三石川の自然と先住権 ★お話：幌村司 聞き手：平田剛士
- ④ 8/7（月）19:00～ 自然界とアイヌの生活 ★お話：アシリレラ（山道 康子） 聞き手：八重樫志仁

北海道の問題から地球と共生の未来を考える part 3

札幌オリパラを考えよう

- ③ 7/4（火）18:45～ クーベルタンの「夢と悪夢」から考えるオリンピックの未来 ★上村英明
- ④ 8/1（火）18:45～ 地域からオリンピックをどう見るか ★奥田仁

カール・マルクス著『資本論』を読む ★チューター 宮田和保

- ③ 7/5（水）18:45～ ④ 8/2（水）18:45～

人と動物との共存・共生をめざして part 2

- ④ 7/7（金）18:45～ タンチョウはなぜ遊水地に棲み続けるの？ ★正富宏之、正富欣之
- ⑤ 8/4（金）18:45～ 北海道立「動物愛護センター」設立のための保護活動 ★川添敏弘

動物福祉の名著『アニマル・マシーン』を読む ★コーディネーター 滝川康治

- ④ 7/8（土）13:30～ ⑤ 8/5（土）13:30～

20世紀を切り開いたアイヌ列伝 part 3

- ③ 7/12（水）18:45～ 移住、また移住、また移住の天川恵三郎 ★平山裕人
- ④ 8/9（水）19:00～ 山辺安之助 自ら学校をつくる ★小川正人

森崎和江を偲ぶ

- ③ 7/15（土）14:00～ 森崎和江の越境する連帯の思想 ★玄武岩

越境する人と文化を通して読み解く東アジア IV ★講師 朴仁哲

- ④ 7/18（火）18:45～ 韓国の慶尚北道を事例として
- ⑤ 8/22（火）18:45～ 中国の黒龍江省を事例として

このままでいいの？再生可能エネルギーの進め方 part12

- ③ 7/20（木）18:45～ 水俣の地形・地質と風力発電問題 ★長峰智
- ④ 8/17（木）18:45～ みなまたに風車はいらない ★中村雄幸

女性の貧困を考える

- ③ 7/21（金）18:45～ コロナ禍でより鮮明になった貧困と格差 ★工藤遙、五嶋輝祥、yuki
- ④ 8/18（金）18:45～ 女性労働の現状について ★近藤恵子、桃井希生

日本の植民地主義を考える－共につなぐ未来のために

- ③ 7/24（月）18:45～ 戦時中の三井芦別炭鉱労働者の記憶をつなぐ ★長谷山隆博
- ④ 8/21（月）18:45～ 民族学級を知っていますか ★李月順

簡単健康講座－五臓六腑の五臓を学ぶ。東洋医学でお手軽養生！ ★講師 堀口恭弘

- ③ 7/27（木）18:30～ 倉庫の官「脾」とは ④ 8/24（木）18:30～ 相傳の官「肺」とは

現代と歴史－ウクライナ戦争とアジア・太平洋戦争を考える ★講師 北村公一

- ③ 7/26（水）18:45～ アジア太平洋戦争後半 戦争とは何か
- ④ 8/30（水）18:45～ 太平洋戦争の終戦工作と敗戦、戦争の終わり方 戦争とは何か

出版文化の可能性－北海道から全国に向けて発信しよう part 1

- ② 7/28（金）18:45～ 社会運動を本にしよう ★下郷沙季
- ③ 8/25（金）18:45～ ノンフィクションの作り方 ★山本哲平



さっぽろ自由学校「遊」 からのお知らせ

教室開催講座（2023年7～8月開講分）

(会場記載のないものは愛生館ビル5F 501会議室にて)



花さんの読書ゼミ 記憶に残る詩を味わう ★チューター 花崎皋平

③7/13(木) 14:00～ ④8/10(木) 14:00～

映像で見るウクライナの今

③7/13(木) 18:45～ ブチャなどのキーウ周辺の虐殺 ★ツアガーレニック・タッチャナ ほか

④8/10(木) 18:45～ 戦時下の市民ボランティア連帯 ★クラコワ・ベロニカ ほか

老いと向き合う part 9

③7/7(金) 14:00～ 自然葬 32年の歩み ★俵屋年彦

④8/4(金) 14:00～ 交流会

⑤9/1(金) 14:00～ おひとりさまの食生活 ★今嗣王、細谷洋子

「遊」版うたごえ喫茶 2023 於：愛生館サロン（愛生館ビル6F南側奥）

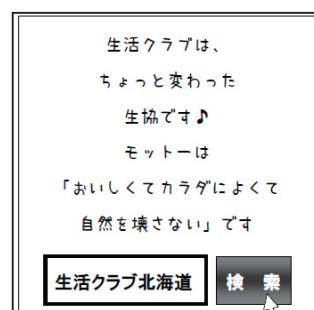
④7/21(金) 14:00～ ⑤8/18(金) 14:00～

読書室 よりみちまわりみち

④7/15(土) 14:00～ ⑤8/19(土) 14:00～

アイヌアートデザイン教室 ★講師 貝澤珠美

毎月第二・第四水曜 13:00～



編集後記

6月から八木さんが加わり、7年ぶりに事務局複数体制となります。少々さびついた「遊」のあれこれの刷新にご期待ください。(二)

浦幌で「先住権としての川でサケを獲る権利」(表紙)に参加。海外ゲストから「成功例」を聞けると思っていたが、為政者の無理解と不作為は世界共通であった…。(や)

ゆうひろば

発行：NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」

〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目 愛生館ビル5F 501

・郵便振替口座： 02780-5-47036 (名義：自由学校「遊」)

- TEL:011-252-6752
- FAX:011-252-6751
- syu@sapporoyu.org
- http://www.sapporoyu.org



web サイト



F B ページ